令和8年度　森町小・中学校　全国学力・学習状況調査の結果の概要

令和8年10月　森町教育委員会

令和8年度全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒を対象として実施されました。教科に関する調査のうち、小学校の国語・算数及び中学校の国語・数学は令和8年4月23日に実施されました。また、中学校英語及び児童生徒質問調査は、一定の実施期間を設け、オンラインによる CBT 方式（パソコンやタブレットを用いて解答する方式）で実施されました。

この調査は、文部科学省が、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てることなどを目的として実施しています。森町では、今後も継続して各学校における児童生徒への教育指導を一層充実させ、学力向上や学習環境の改善に取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

1　教科に関する調査の状況

小学校（3 校）

① 各教科の平均正答率（%）　第 6 学年74名

	国　語	算　数
森　　町	45	36
全　　道	60	54
全　　国	60.9	56.4
全道との差	-15	－18
全国との差	-15.9	－20.4

※森町・全道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値です。

学習指導要領の内容から見た分類別正答率

国　　語					
	森　町	全　道	全　国	全道比	全国比
言葉の特徴や使い方に関する事項	45.3	65.9	66.8	-20.6	-21.5
情報の扱い方に関する事項	35.8	51.0	52.3	-15.2	-16.5
我が国の言語文化に関する事項					
話すこと・聞くこと	51.4	64.4	65.8	-13.0	-14.4
書　くこと	38.5	43.2	45.7	-4.7	-7.2
読　むこと	53.4	65.0	65.9	-11.6	-12.5

算　　数					
	森　町	全　道	全　国	全道比	全国比
数と計算	40.4	58.2	61.1	-17.8	-20.7
図　形	31.1	51.8	55.3	-20.7	-24.2
測　定	60.8	76.4	78.1	-15.6	-17.3
変化と関係	26.6	38.1	41.1	-11.5	-14.5
データの活用	31.8	45.6	48.6	-13.8	-16.8

中学校(2校)

① 国語・数学の平均正答率(%)　第3学年88名

	国　語	数　学
森　　町	57	45
全　　道	63	55
全　　国	63.9	57.0
全道との差	-6	-10
全国との差	-6.9	-12

※森町・全道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値です。

② 英語の調査結果

中学校英語では、「聞くこと」「読むこと・書くこと」「話すこと」の4技能について調査が行われました。

・4 技能の平均正答数

	4技能合計	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
森　　町	2.9 問／9 問	0.9 問／2 問	1.8 問／5 問	0.2 問／2 問
全　　道	4.2 問／9 問	1.2 問／2 問	2.4 問／5 問	0.6 問／2 問
全　　国	4.5 問／9 問	1.2 問／2 問	2.6 問／5 問	0.7 問／2 問

・IRTスコア

	平均 IRT スコア
森　　町	433
全　　道	489
全　　国	499
道 と の 差	−56
全国との差	−66

※IRTスコアとは、問題の難易度を考慮して算出した学力の到達状況を示す数値です。単純な正答率とは異なり、学習内容の理解の程度をより詳しく把握するために用いられています。

国語・数学の平均正答率と英語のIRTスコアは算出方法が異なるため、数値を直接比較することはできません。

学習指導要領の内容から見た分類別正答率

国　語					
	森　町	全　道	全　国	全道比	全国比
言葉の特徴や使い方に関する事項	59.1	61.9	63.0	-2.8	-3.9
情報の扱い方に関する事項	61.4	69.0	70.4	-7.6	-9.0
話すこと・聞くこと	59.5	63.1	63.9	-3.6	-4.4
書　く　こ　と	59.5	68.2	67.4	-8.7	-7.9
読　む　こ　と	49.2	59.0	59.7	-9.8	-10.5

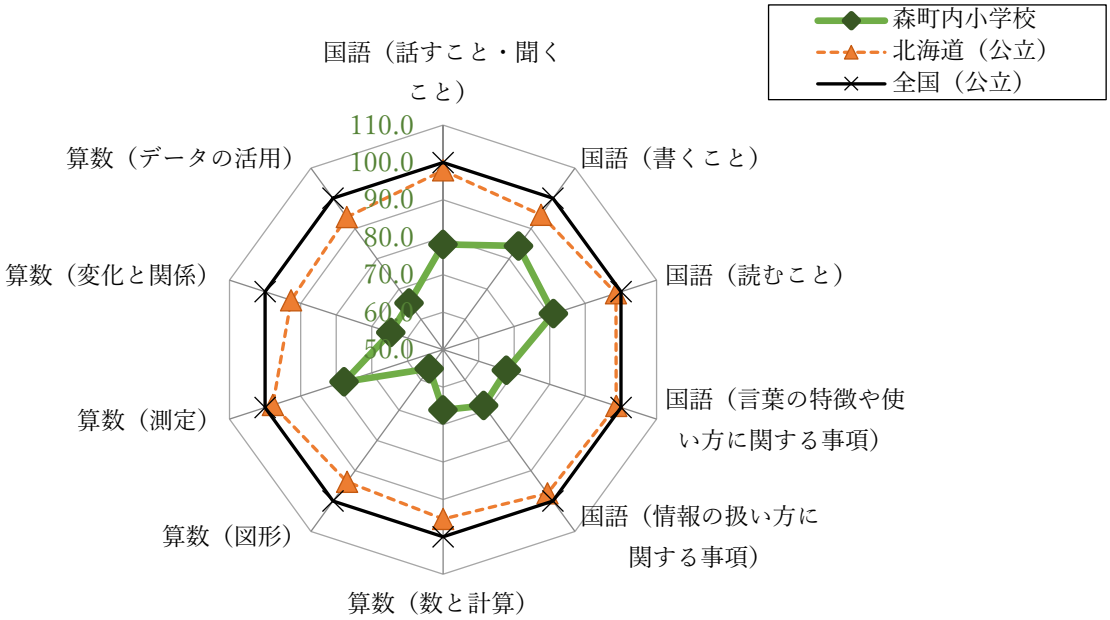
数　学					
	森　町	全　道	全　国	全道比	全国比
数　と　式	61.8	66.2	67.8	-4.4	-6.0
図　形	34.7	47.9	48.7	-13.2	-14.0
関　数	36.4	50.7	54.8	-14.3	-18.4
データの活用	42.3	51.3	53.5	-9.0	-11.2

【レーダーチャート】

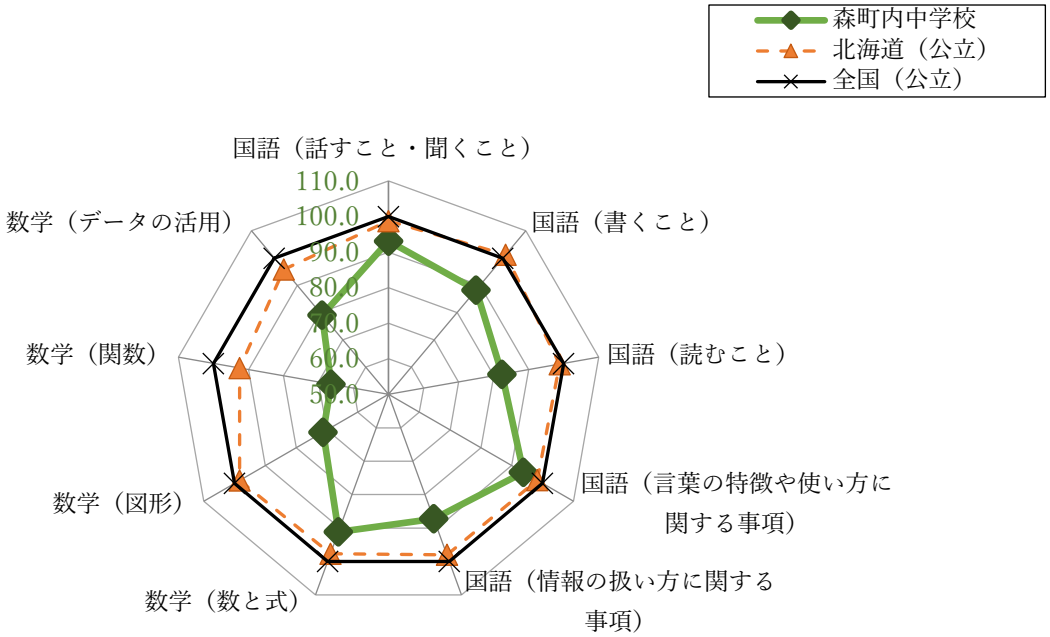
・教科の領域別に全国を 100 とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100 で算出）

・中学校理科の結果は、IRT スコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校



中学校



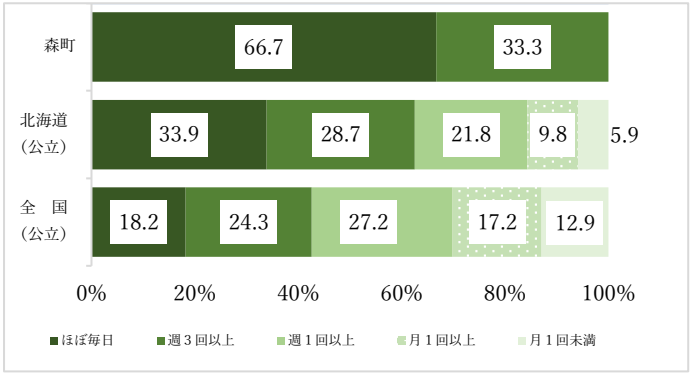
2　質問調査の状況と調査結果の分析

令和8年度町内小･中学校における4つの共通テーマ

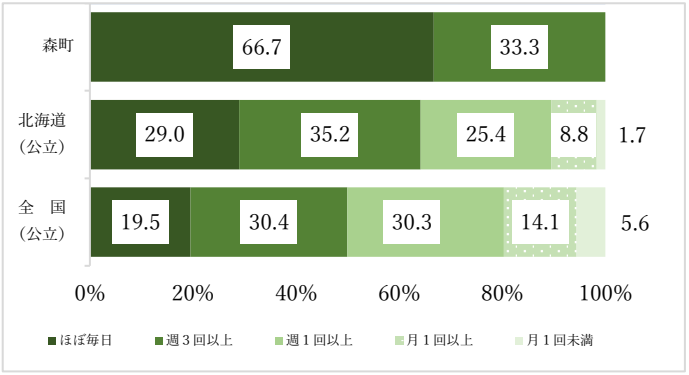
① ICT活用
② 個別最適な学び
③ 協働的な学び
④ 安心して学べる環境

小学校〈学校質問〉

Q64 調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備された PC･タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



Q65 調査対象学年の児童が自分の特性や理解度･進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備された PC･タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

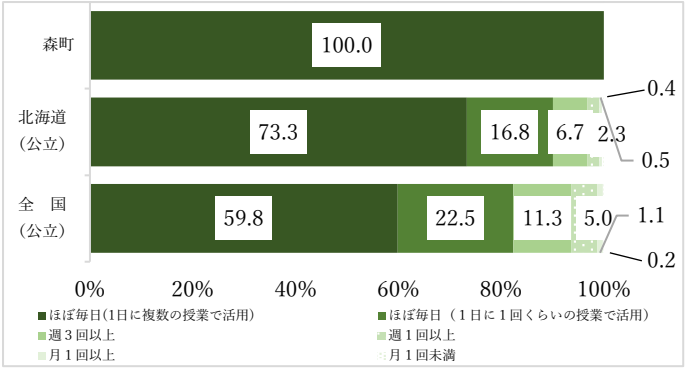


小学校では、児童同士が考えを交流する場面や、児童一人一人が自分の特性や理解度、学習の進度に応じて課題に取り組む場面において、1人1台端末が日常的に活用されています。町の教育施策として進めてきたAI型ドリル等の活用と併せ、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」が各学校の教育活動に位置付けられていることがうかがえます。

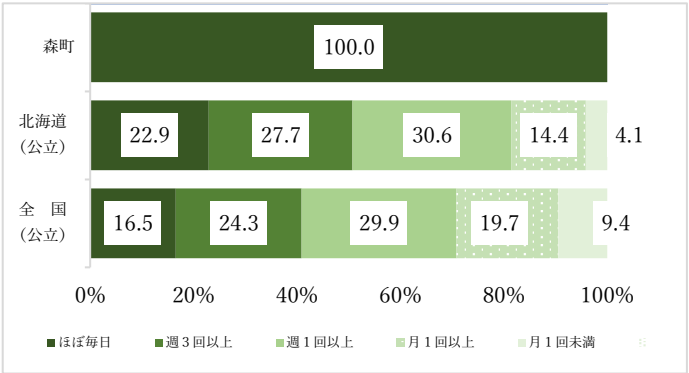
今後は、1人1台端末を活用する場面の充実に加え、児童自身が課題や学習方法を選択したり、友達との交流をとおして考えを広げたり深めたりするなど、「主体的･対話的で深い学び」の実現につながる取組の一層の推進が必要です。

中学校〈学校質問〉

Q68 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備された PC･タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



Q73 調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度･進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備された PC･タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

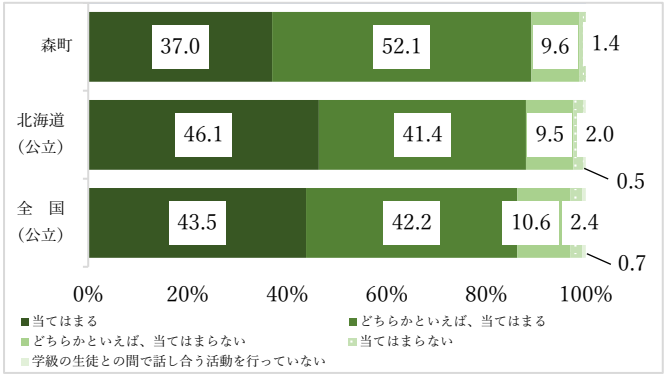


中学校では、1人1台端末を日常的に活用するとともに、生徒一人一人の特性や理解度、学習の進度に応じて課題に取り組む場面においてもICT機器が活用されています。ICTを学習の基盤として活用する環境が整えられ、「個別最適な学び」の充実に向けた取組が進められていることがうかがえます。

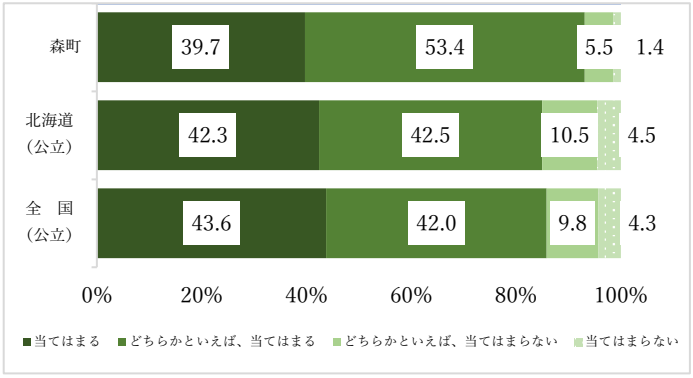
一方で、生徒が自ら学習方法を選択したり、学習の見通しをもったり、振り返りをとおして次の学習へつなげたりすることについては、引き続き意識していくことが重要と考えられます。今後も、ICT機器の効果的な活用をとおして、主体的に学び続ける力の育成につながる教育活動の一層の推進が必要です。

小学校〈児童質問〉

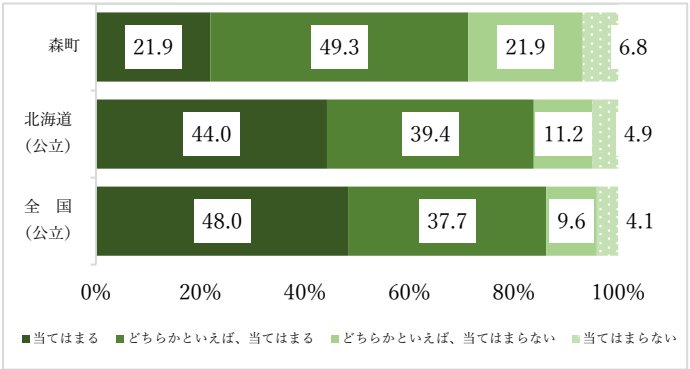
Q42 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



Q8 自分には、よいところがあると思いますか



Q15 学校に行くのは楽しいと思いますか



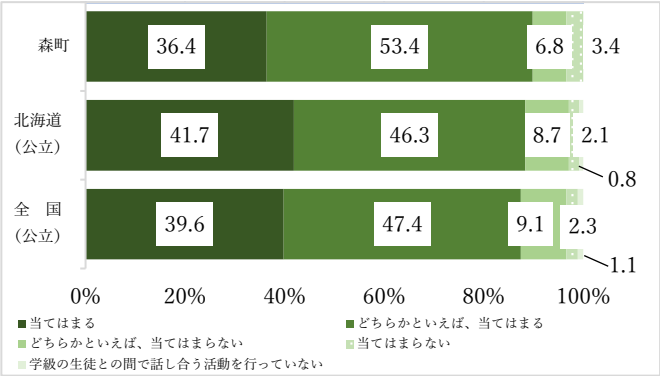
小学校では、話合い活動をとおして、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回りました。また、「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合も高く、一人一人のよさや可能性を認める学校の取組が、自己肯定感の向上につながっていることがうかがえます。

一方、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童の割合は、全国及び全道を下回る結果となりました。自己肯定感の高さを、学校生活の充実感や学習意欲の向上へ結び付けていくことが大切であると考えられます。

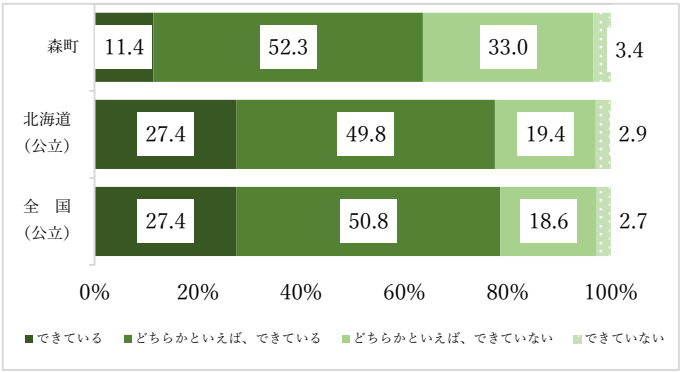
今後は、児童一人一人の声や思いを大切にする「こどもまんなか」の視点を踏まえながら、安心して学ぶことができる環境づくりや、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりについて、引き続き工夫していく必要があります。

中学校〈生徒質問〉

Q42 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



Q22 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



中学校では、話合い活動をとおして、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回りました。生徒同士が互いの考えに触れながら学ぶ機会が授業の中に位置付けられていることがうかがえます。

一方で、「自分で学び方を考え、工夫することができる」と回答した生徒の割合は、全国及び全道を下回る結果となりました。今後は、話合い活動を通じた協働的な学びに加え、生徒自身が課題や学習方法を選択したり、学習過程を振り返ったりする活動をより一層充実させるとともに、自ら学び方を調整しながら学習を進める力を育むことが重要であると考えられます。また、生徒が安心して自分の考えを表現し、多様な意見を認め合うことのできる学習環境づくりが重要です。

3　今後の改善方策

調査結果からは、本町が継続して進めてきたICTを活用した学習環境の整備や AI 型ドリルの活用、児童生徒同士の対話を重視した授業づくりなどに一定の成果が見られる一方、基礎的・基本的な知識・技能の定着や、自ら学習方法を考えながら学ぶ力、学校生活の充実感等に課題が見られました。

このことから、各学校においては、全国学力・学習状況調査の結果や日常の学習状況を踏まえながら、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めていくことが重要です。

また、児童生徒一人一人の声や思いを大切にする「こどもまんなか」の視点を踏まえ、教育相談体制の充実や不登校の未然防止・早期対応に努めるとともに、誰もが安心して学び、自分らしさを発揮することのできる学校づくりが求められています。

本教育委員会としましては、令和8年度教育行政執行方針に掲げる「学び続ける力を育む教育」の実現に向け、各学校における取組や成果、課題を共有しながら、学校と連携した授業改善や研修の充実、ICT活用の推進等を通して、児童生徒の資質・能力の育成に向けた教育活動を支えてまいります。